

平和のために

名護特別支援学校 中学部三年

玉城 幸和

おそろしい戦争の中で、ひめゆりがくつという女の子たちが、たたかっています。ひめゆりの生徒のねんれいは、十三才から十八才。私と同じ年の子もいます。友だちとあそぶことが大好きな中学生でした。運動会や学習発表会で、明るく元気にとびまわる中学生でした。今の私となにもかわらない中学生です。でも、ひとつだけ、私とちがうところがありました。それは、ひめゆりの生徒は、戦争をけいけんしているということです。あのおそろしい戦争の中で、ひめゆりたいは、へいたいさんのかんごいんとして、戦場へとむかっていったのです。

ガマのおくに作られた、りくぐんびよういんは、暗くてジメジメして、いやなにおいのするところでした。そんなところで、ひめゆりたいは、いっしょうけんめい、へいたいさんたちをかんごしました。とても、えいらいなと思いましたが、とても私にはできないことです。先生の話聞いていて、むねが苦しくなりました。

ひめゆりの話の中で、いちばん心にこった場面は、ばくだんにあたった友達が大ケガをしたところです。動くこともできず、にげることもできなくなった友達、「私のことはいいから、先ににげて！」と、ほかの友達に言ったとき、泣きたくなりました。ケガをしていない友達に、めいわくをかけてはいけないと思ったのでしよう。ほんとは、彼女だつて生きたいと思つていたはずなのに・・・。てきがせまつてくる時にでも、友達のこと思いやる彼女のすがたに、心をうたれました。

そして、にげ続けた友達は、のこしてきた彼女のためにも生きようと、にげ続けました。がけの上で「ふるさとの歌」を泣きながら歌うすがたは、とても悲しかったです。助けてあげられなかった友達を思つて歌いました。はなればなれになった、お父さん、お母さんを思つて歌いました。「もう一ど、たまのとんでこない空の下を歩きたいね。」と言いながら歌いました。私は、毎日、青い空の下を歩いて生きていることをうれしく思いました。見上げたら、プカプカうかんている白い雲と青い空を見ることができません。戦争は、こんなに大きな広い空をかくしたのかと思うと、おそろしくなりました。

この世界中から、戦争がなくなつてほしいと思ひました。戦争が終わつて、六十八年がたちました。私たちは、毎日楽しく、家族や友達にかこまれてすごしています。

でも、ひめゆりの人たちにとっては、まだ戦争は続いています。生きたくても生きられなかった友達の思いを、私たちに伝えようとがんばっています。ひめゆりたいが、たいけんしたことを、みんなに伝えようと、平和きねんしりようかんをたてたり絵本を作つたり、学校でお話したりしてがんばっています。ひめゆりの人たちは、おとしよりになつても、がんばっています。

だから、私もがんばつて戦争のお話を聞きます。ひめゆりの人たちがたいけんしたことをわすれません。二どと、戦争がないように平和学習を続けます。そして、これからは、ひめゆりの人たちも、私たちと同じように戦争のない毎日わらつてすごせるようになってほしいと思います。